

現場経験を生徒達に還元

工業高校教諭が現場実習



日野川河川改修工事



滑石団地(高耐)建築工事

県教育委員会が(社)県建設業協会の協力のもと実施した『高等学校産業教育県内事業所委託実技研修』が29日～31日の3日間、各地の土木・建築工事の現場で行われた。

県北地域のうち、佐世保市日野町の日野川河川改修工事(1工区)の施工現場では、県立鹿町工業高校の高比良俊作教諭と大楽院弘季教諭の2人が、施工業者である榊平成建設の廣津真也作業所長から指導を受けた。同工事は、日野川拡幅工事に伴う既設橋梁の架け替え工事で、新工法のBKF工法を採用している。

実習体験の2教諭は2日目まで、現場作業を手伝いながらその施工の様子を見学。現業者らにも疑問点や質問をぶつけながら、積極的に取り組んでいた。最終日の31日は、現場から発生する騒音と震動の測定に立ち会った。測定機器を使用し3カ所を測定。その作業の様子も真剣な表情で学んでいた。

研修者の大楽院教諭は「現場での安全管理や歩行者への配慮などが徹底されており、工事だけではない気配りを感じた。生徒たちにも作業だけではない生きた現場の息吹を教えたい」と3日間の感想を語った。また、廣津所長も「お二人は、現場を真剣に感じて吸収しようとされていた。意欲的に研修に取り組まれ、感心した。現場では万全の安全対策を行いながら、実際の作業はチームワークも大事なので、その意義も分かっていたと思う」と述べた。

長崎地区では、県立長崎工業高等学校建築科から、いずれも現場に従事した経験を持つ3人の教諭が参加。上滝・森美工務店共同企業体による『滑石団地(高耐)建築工事(1—10棟)』において、松尾匠作業所長(株)上滝建築部)の下、実際の進行や作業などを経験した。

松尾作業所長によると今回の実習におけるポイントは、日々現場が進化している点や安全管理面における意識向上などの認識。

生コン工場や産業廃棄物処理場見学などが盛り込まれた3日間にわたる研修について、小吹尚生教諭は「実際に現場に出てみると、製品の取り扱いなど授業とは異なる点を発見できた。大量のコンクリートを扱う現場という面でも、非常に勉強になった」と感想。

中村啓介教諭は「18年振りの現場で、技術の進歩などでも刺激を受けた。何年かに一度は研修に参加し、経験を生徒たちに還元したい」と意欲を語った。11年前まで現場監督を務めていた山下義文教諭は「安全管理が大変徹底されている。以前よりもずいぶん意識の向上が図られているという強い印象を受けた」と話した。

研修では、ほかにも佐世保市の花園住宅建替(建築)工事(松枝組・金保建設・北松建設共同企業体)や広域大村東彼杵2期地区3号橋梁下部工事(西海建設・トモダ共同企業体)、一般国道202号道路改良工事・2工区(株)誠伸建設)など、県内3カ所でも行われ、佐世保工業や大村工業などの教諭が実習を受けた。